

「学生の授業評価」についての教員アンケート  
集計結果報告（2008年度 前期分）

2009年 1月

実践女子短期大学・自己評価委員会

## まえがき

短期大学部長 小林 修

自己評価委員会のご努力により、平成 20 年度前期の「教員アンケート報告書」がまとめられ、新年早々には、お手元に届けられる運びとなりました。集計や図表化、自由記述欄の整理編集等たいへんな作業であったことと推察致します。先ずは委員長はじめ自己評価委員会の方々のご尽力に心から御礼申し上げます。「教員アンケート報告書」も通算して九号目となりますが、年々グラフや表に改良が見られ、前年同期との比較も加えられるなど工夫の跡が窺がえ、たいへん読みやすくなって来たと思います。関係各位一人でも多くの人に読まれ、参考にしていただきたいと願っています。

さて、今回の集計結果を見ますと、学生の授業評価に対して「十分納得できる」が 29.3%から 32.2%に増え、「大体納得できる」を加えると、一応「納得できる」パーセンテージが 96.8%と前年比 94.6%よりやや増えていることがわかります。これは相対的に「納得できない」が減少したことを意味し、一部学生の安易な評価態度への不信感や学生による授業評価の意義そのものへの疑念が少しずつ減って来たことの徴候と見られ、学生による授業評価への理解が徐々に深まって来たように思われます。また、先に報告された学生の授業満足度を見ると、「大変満足」が 48%から 51%に上昇しており、教員側の数値と合わせて喜ばしいことと思います。しかし、他方で気になることは、アンケート回答数が、前年同期の 75 人から 59 人に減少したことです。一昨年同期には 85 人ありました。これは教員アンケートが幾分マンネリ化したと受け止められたことの反映とも思われますが、たいへん残念なことです。前にも書きましたが、学生による授業評価に対して教員アンケートを実施し、集計報告書を発行している大学は全国でも極めて珍しく、第三者評価でも高く評価されています。

昨年度から 15 週授業が実施され、共通教育の改革検討を含め、様々な会議の増加など校務はますます忙しくなっていますが、教員アンケートの意義をご理解下さり、次回以降もいっそうのご協力をお願い致します。今回も自由記述欄の様々なご意見やご要望に教えられることが多く、「学生に少しでも良い教育を提供したい」との思いは共通しており、教員それぞれが自らの授業改善に地道な努力を傾注されていることに改めて意を強く致しました。今回の報告書が実践女子短期大学全体の教育力アップのため、大いに活用されることを願っております。

## 2008 年度前期「学生による授業評価」に関する教員アンケートについて

自己評価委員会委員長 佐藤 辰雄

2008 年度前期の『教員アンケート報告書』が完成しましたのでお届けします。

今回のアンケートには 59 通の回答が寄せられました。後期が始まってまだまだ慌ただしさが収まり切れない中、このように多数ご協力いただいたことに深謝いたします。

回答内容については後掲の通りですから、この場で概略的な評価を改めてすることは避けませんが、回答数そのものについては一言する必要があるでしょう。それは、最近三年間に限って見ますと、回答数が 2006 年度 85 通、2007 年度 75 通、今回が 59 通と減少している事実です。これは決して微減などとは言えない変化に思われます。専任・兼任を問わず教員数が削減されていることも影響なしとしないでしょうが、しかし他にもっと主たる原因が潜んでいるのかも知れない、と自己評価委員会としてはたいへん気になる傾向です。広く深く総体的に究明する必要がありそうですが、ここではひとまず事実の指摘だけに留めます。

本『教員アンケート報告書』が先生方に広く読まれることを期待するとともに、それを前提にしてこの場を借りて、先生方をお願いしたいことが二点あります。

その一は、機器備品や設備に不備がありました場合、その不備内容と教室番号を具体的にお書きいただきますと、すみやかに確実に対策を取れます。

その二は、授業の開講期や教室の割り当て等に関してご要望がある場合、現在担当している科目名や教室名をお書きくださると、不都合がないよう即座に対応を検討できます。もちろん、プライバシーは充分に守られますので、ご懸念には及びません。

「教員アンケート」で出されましたご要望につきましては、教務担当や学生担当・庶務担当などと緊密に連絡を取りながら改善に努めておりますが、本「アンケート」の実施を待つことなく、改善を急ぐべき不都合がございましたなら、講師控室担当事務員等にご遠慮なくお申しつけください。先生方がさまざまにお持ちの教育力量を十全に発揮していただく為にも、また学生に豊かな教育環境を提供する為にも、ご協力の程を宜しく願います。

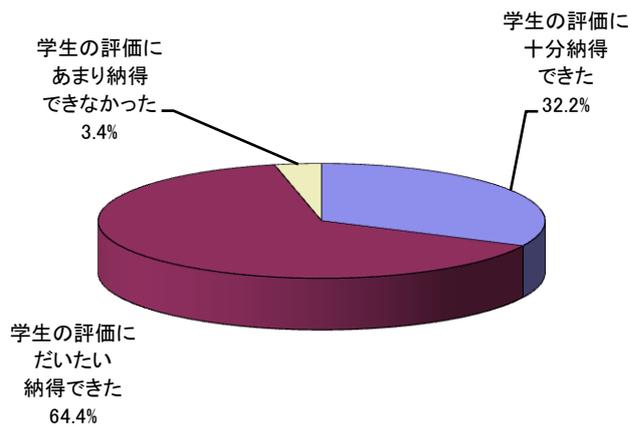
最後になりましたが、本『報告書』が授業を省みる好個の機会となり、またFD推進委員会による授業評価の再検討にも活用されて、短期大学全体の授業の改善と向上に資することを心より願っております。

## I. 設問 1、3、4に関する集計結果

— 平成20年度前期と平成19年度前期の比較 —

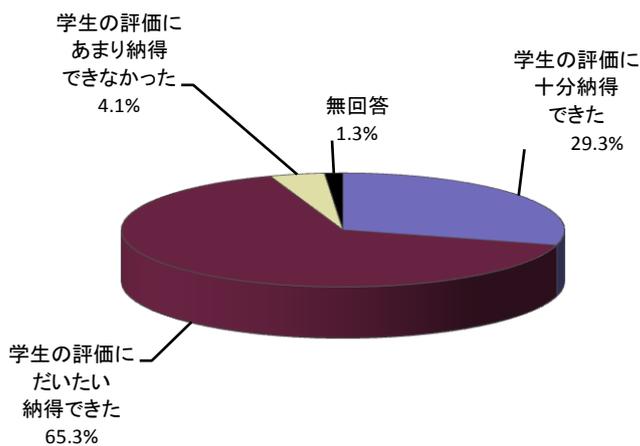
設問 1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。(一つ選んでください)

平成20年度 前期



選取肢	回答(人)	割合
学生の評価に十分納得できた	19	32.2%
学生の評価にだいたい納得できた	38	64.4%
学生の評価にあまり納得できなかった	2	3.4%
合計	59	100.0%

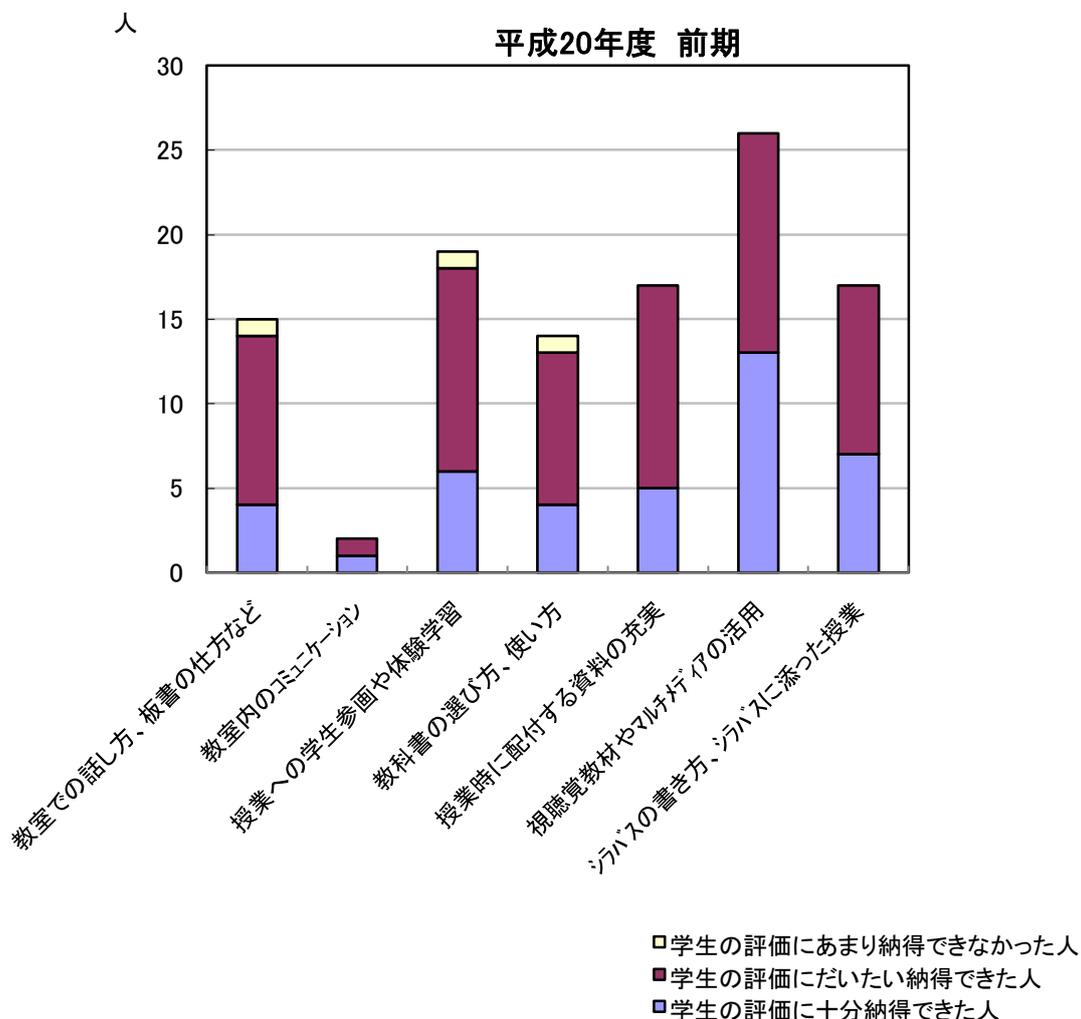
平成19年度 前期



選取肢	回答(人)	割合
学生の評価に十分納得できた	22	29.3%
学生の評価にだいたい納得できた	49	65.3%
学生の評価にあまり納得できなかった	3	4.1%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%

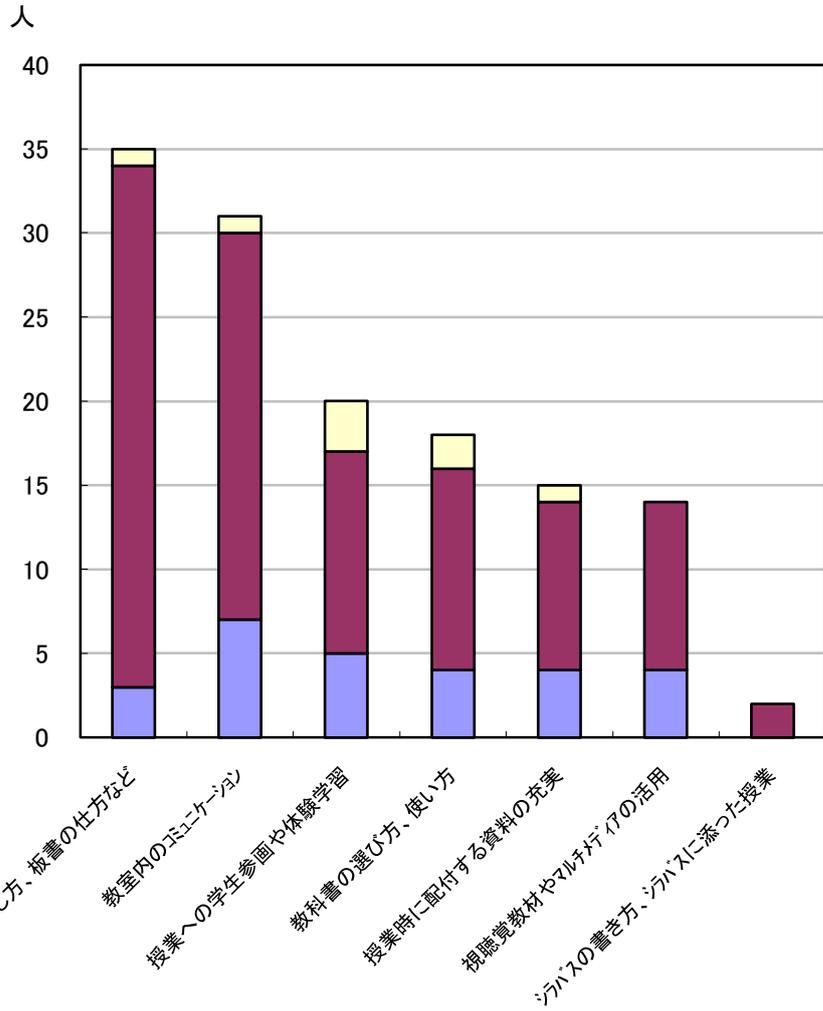
次の設問3および設問4は、学生の評価に「十分納得できた人」「だいたい納得できた人」「あまり納得できなかった人」の3群の先生方が、どのように授業改善を図りたいと考えているのか、学生に対してどのような要望をお持ちかを、それぞれ棒グラフにしました。

**設問3. 学生の評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどのようなことですか。（複数回答可）**



授業で改善を図りたい点	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
教室での話し方、板書の仕方など	4	10	1	15
教室内のコミュニケーション	1	1	0	2
授業への学生参画や体験学習	6	12	1	19
教科書の選び方、使い方	4	9	1	14
授業時に配付する資料の充実	5	12	0	17
視聴覚教材やマルチメディアの活用	13	13	0	26
シラバスの書き方、シラバスに添った授業	7	10	0	17
その他	1	5	0	6
無回答	1	4	1	6

平成19年度 前期



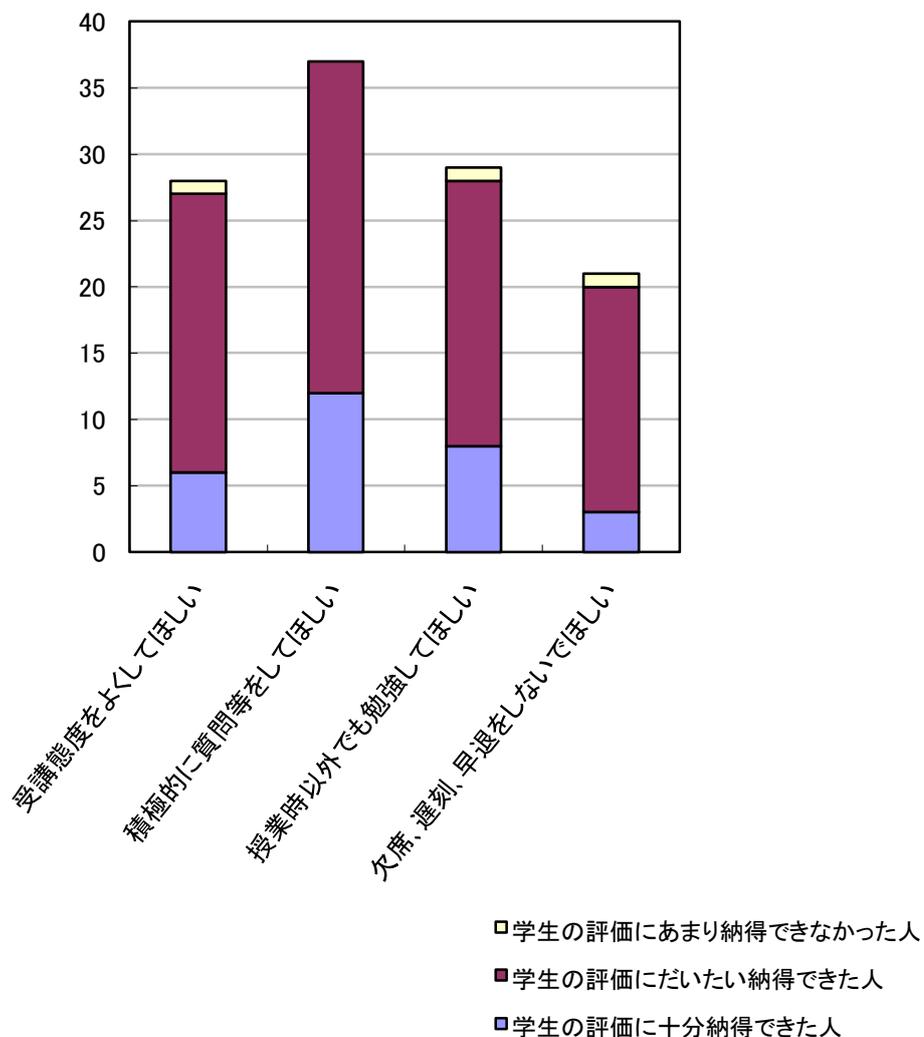
- 学生の評価にあまり納得できなかった人
- 学生の評価にだいたい納得できた人
- 学生の評価に十分納得できた人

授業で改善を図りたい点	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
教室での話し方、板書の仕方など	3	31	1	35
教室内のコミュニケーション	7	23	1	31
授業への学生参画や体験学習	5	12	3	20
教科書の選び方、使い方	4	12	2	18
授業時に配付する資料の充実	4	10	1	15
視聴覚教材やマルチメディアの活用	4	10	0	14
シラバスの書き方、シラバスに添った授業	0	2	0	2

設問4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどのようなことがありますか。  
(複数回答可)

平成20年度 前期

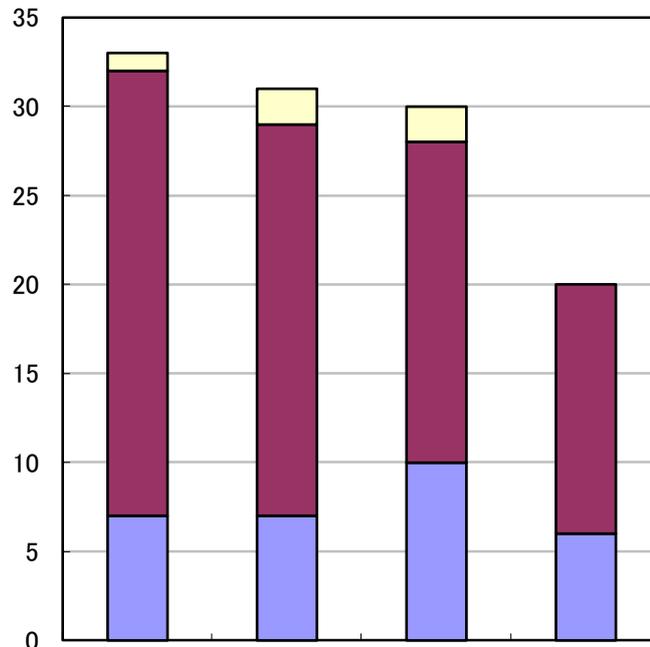
人



学生に対する要望	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
受講態度をよくしてほしい	6	21	1	28
積極的に質問等をしてほしい	12	25	0	37
授業時以外でも勉強してほしい	8	20	1	29
欠席、遅刻、早退をしないでほしい	3	17	1	21
その他	1	2	0	3
無回答	3	4	1	8

平成19年度 前期

人



希望する授業態度をよくしてほしい  
積極的に質問等をしてほしい  
授業時以外でも勉強してほしい  
欠席、遅刻、早退をしないでほしい

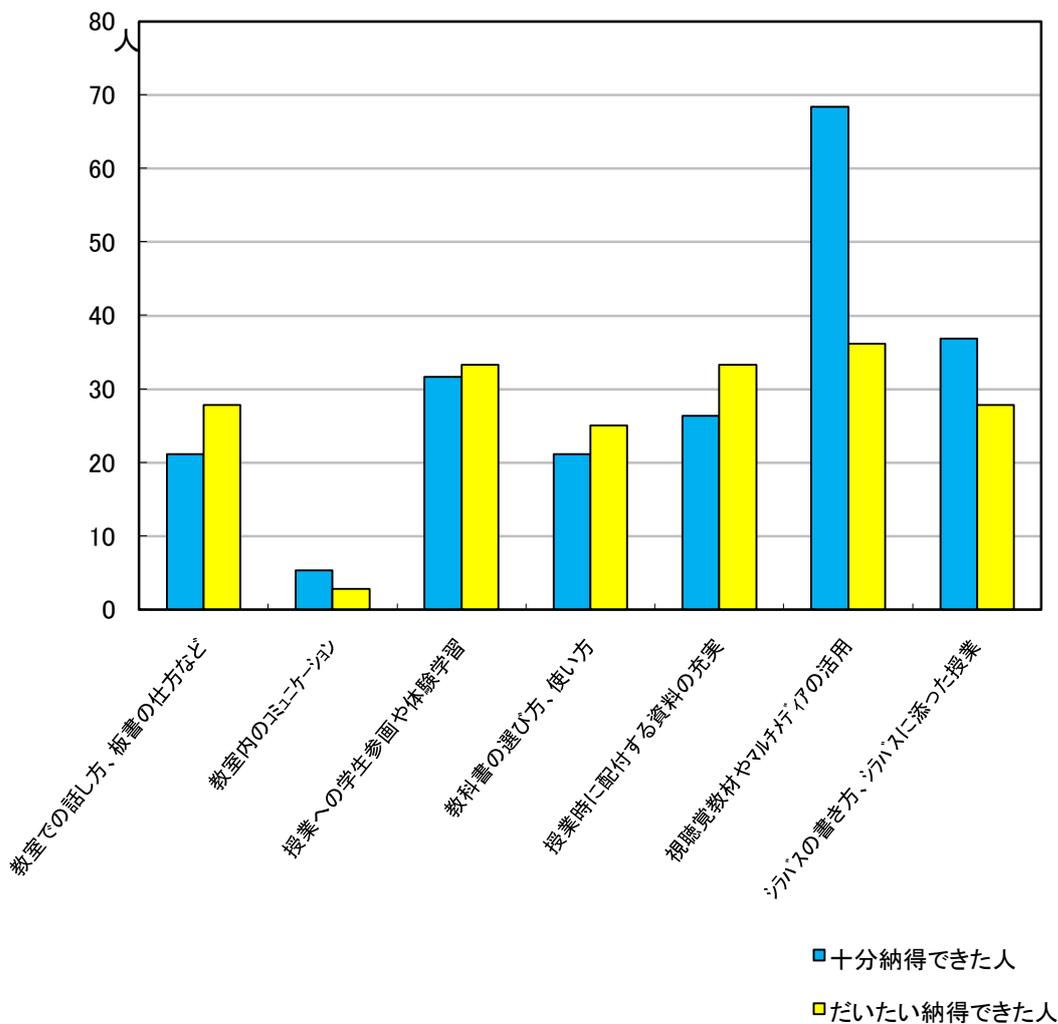
- 学生の評価にあまり納得できなかった人
- 学生の評価にだいたい納得できた人
- 学生の評価に十分納得できた人

学生に対する要望	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
希望する授業態度をよくしてほしい	7	25	1	33
積極的に質問等をしてほしい	7	22	2	31
授業時以外でも勉強してほしい	10	18	2	30
欠席、遅刻、早退をしないでほしい	6	14	0	20

学生の評価に「十分納得できた人」と「だいたい納得できた人」た人の差について

I 学生の評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどのようなことですか。（複数回答可）

平成20年度 前期



授業で改善を図りたい点	十分納得できた人 (19人)		だいたい納得できた人 (38人)		合計 (人)
	人	%	人	%	
教室での話し方、板書の仕方など	4	21.1	10	27.8	14
教室内のコミュニケーション	1	5.3	1	2.8	2
授業への学生参画や体験学習	6	31.6	12	33.3	18
教科書の選び方、使い方	4	21.1	9	25.0	13
授業時に配付する資料の充実	5	26.3	12	33.3	17
視聴覚教材やマルチメディアの活用	13	68.4	13	36.1	26
シバスの書き方、シバスに添った授業	7	36.8	10	27.8	17
その他	1	5.3	5	13.9	6
無回答	1	5.3	4	11.1	5

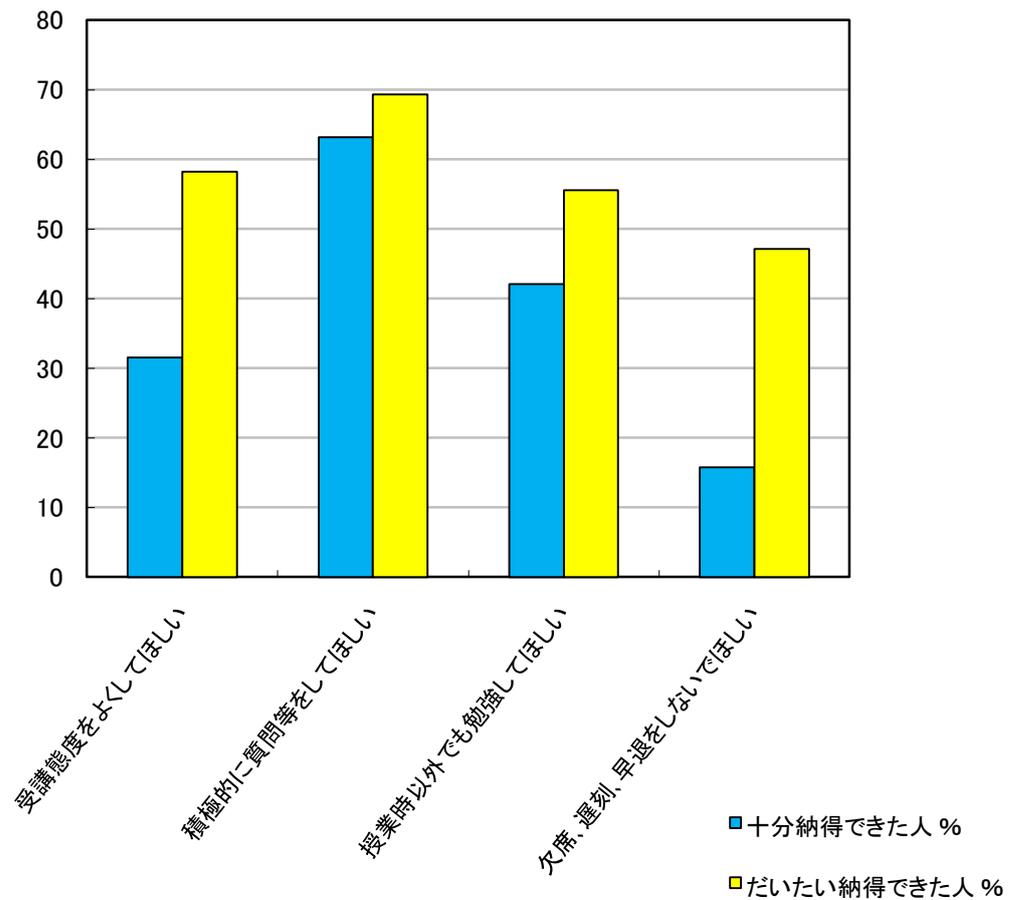
※ 無回答を除く1人当たり回答件数 2.2件 ↓ 1.9件 ↓

注：「十分納得できた人」19人に対する割合 「だいたい納得できた人」38人に対する割合

Ⅱ 設問4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどのようなことがありますか。  
(複数回答可)

平成20年度 前期

人



学生に対する要望	十分納得できた人(19人)		だいたい納得できた人(38人)		合計 (人)
	人	%	人	%	
受講態度をよくしてほしい	6	31.6	21	58.3	27
積極的に質問等をしてほしい	12	63.2	25	69.4	37
授業時以外でも勉強してほしい	8	42.1	20	55.6	28
欠席、遅刻、早退をしないでほしい	3	15.8	17	47.2	20
その他	1	5.3	2	5.6	3
無回答	3	15.8	4	11.1	7

※ 無回答を除く1人当たり回答件数

1.6件

↓

2.2件

↓

注：「十分納得できた人」19人に対する割合

「だいたい納得できた人」38人に対する割合

## II. 設問 1 から 6 に関する自由記述のまとめ

\* 科目および担当者が特定されるような記述は、文章を損ねない範囲で修正いたしました。

また、類似の記述については、まとめさせていただきましたことをご了承ください。

### 設問 1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。

#### <十分納得できた>

- ・授業の進め方や内容についてはポイントが高く、学生自身についてはポイントが下がる点。実験の授業なのでどうしても私語が多くなる。
- ・学生の主観なのだから納得した。現状認識をするのみ。
- ・学生の評価が思ったよりも高く、そのことにびっくりしました。
- ・学生は、教員をしっかりと評価していると感じる。授業の改善に努めたところは、いい評価となっていた。
- ・履修した学生の理解度や授業態度に落差があったので、納得できる。特に、15 の「受講してよかったか」の問いに「強くそう思う、ややそう思う」が 49% に対して、「どちらともいえない」が 42.9% と二つに分かれていたのも、自分の実感と一致した。
- ・「授業に関するアンケート」項目 1 の私語については、授業に関するものは許可している。しかし、目につくところでは注意しているが、難しい。
- ・授業の出来は良かったと思えないが、予想以上の評価でした。
- ・受講生が少なかったため、顔の見える関係で親近感があったと思う。
- ・熱意をもって授業に臨んだ点。地域連携事業として参画したが、学生主体にうまく進めることが出来た。
- ・納得できる点：「授業に関するアンケート」項目 8 の教員は熱心に授業を進めたか、についての評価。
- ・演習をとり入れての授業が良い評価につながったものと思う。
- ・後期から前期に移動し、就職活動に直結することもあり、受講姿勢は前向きであった。そのため評価も納得できるものになっている。

#### <だいたい納得できた>

- ・誰にでもわかりやすくしたつもりなので、受け入れられていると思う。
- ・この科目を担当させていただきまして 4 年目ですが、昨年までは実践女子短大の学生さんは真面目な方が多く、授業もやりがいを感じておりました。ところが、今年度はこれまでと大きく異なり、まず、授業の欠席・遅刻が大変多く、次に、出席していても授業とは関係のないおしゃべりや内職が多く、注意はするものの、授業が上手く進んでいないことが感じられていました。だから、納得のいく結果でした。

- ・納得できない点：アンケートに回答する学生が、真摯に対応しているか疑問。
- ・授業の進め方が遅かったか。予定通りにはいかないものである。
- ・授業中に授業と関係ない話をしたか否かは、文学の場合には受け取り方にもよると思う。また、導入としては必要なこともある。
- ・今年は私語がなく、やりやすいと思っていたが、アンケートでは異なっていた。
- ・手ごたえ通り。同一講義を2クラス担当しているが、一方は授業態度が非常に良く、一方は真逆だった。講義の内容、進度等はそろえたが、前者のクラスの評価は良く、後者は悪い。
- ・予想以上に評価されていた。
- ・学生との対話を大切にと思います。
- ・自分に甘く、教員には厳しい傾向は、従来と変わらない。このようなものだと思っている。
- ・「たいへん満足した」の割合が比較的高いので、自分のやり方がある程度成功していると考えている。
- ・やる気のあるクラスでは普通に考えられる結果が出ているが、初めからやる気のないクラスは平均を下回ったことが面白い。
- ・実験は2年生になって初めてであり、しかも微生物に関してはほとんどの学生が扱ったことがないので、難しく感じたかもしれない。レベルと量以外は概ね好意的な評価であった。
- ・授業開始時から学生の私語が多くあったが、短大での授業に慣れるにしたがって、落ち着いてきた。
- ・各科目とも、予想していた結果であったため、納得できる。
- ・妥当に評価してくれていると思います。
- ・学生は、自己評価は高く、他者評価は低い。
- ・例年通り、ビデオ教材を使った授業の方が満足度が高いという結果には、納得できました。
- ・授業での感触とレポート試験の結果から判断して納得できる。
- ・毎回、授業のレポートで学生がどのように受け止めているか、理解できたかを検証しています。今回の結果については、ある程度推測ができました。但し、授業を受けるモチベーションが低かった学生がどう評価したか、その原因は何かを知りたかったです。
- ・人数が少ないため、平均値が上がったようです。

**<あまり納得できない>**

\*この項の記述なし

**設問2. 授業のレベルと量について学生の評価はいかがでしたか。この評価について、先生の側から見たご意見をお書きください。**

**a. レベルについて**

- ・レベルは「やや難しい」と「難しすぎた」でほぼ100%だが、新しい知識や経験をしていく上では乗り越えられるべき課題と考える。
- ・妥当と考えます。難しいと感じられている。
- ・常識的なことを中心に教えているので、難しくはないはず。ただし、高校時代までに、社会性を養ってない学生には難しかったかもしれない。
- ・「やや難しい」と答えたのは100%。これからもっと理解できるよう、分かりやすく授業をしていきたいと思う。
- ・レベルの適切さを「強くそう思う」と「ややそう思う」で80%という結果であった。しかし、「あまりそう思わない」と「そう思わない」という回答を各1%認めた。難易度は「難しすぎた」と「やや難しい」が各1名あったので、もう少し分かりやすい説明に努力したい。
- ・難しさを残しながらも受講生が付いてこれるような工夫をする必要がある。
- ・おおかた予測できた評価でした。
- ・「やや難しい」という評価が少しあったが、レベルのばらつきを考えると仕方がない。(個人的フォローをする)
- ・最初の予定よりもレベルを少し落としました。
- ・内容が難しかったのか？(子供に興味がないと難しい！)
- ・熱心な学生はかなり満足してくれて自由記入欄に記入してくれた。分かりやすい作品を選んだと思うが、こうした小説(明治・大正)を読むことに慣れない、または単位だけ必要としている学生には、これでも入りにくい世界なのかと思う。
- ・高すぎるということなのかもしれないが、学生の評価をもっと具体的に知りたい。
- ・この科目は、知的な理解や知識量を増やすことを求めるものではなく、教師によって示された内容を自分で考えたり、体験学習によって実感したことをもとに気づきを広げたり深めたりしていくタイプのもので、ですから、積極的にそれに取り組み大変意味のある学習をしている方と、表面的に流すだけの方の両極がいたように感じます。学生本人にはこのあたりの自覚はないため、このような結果になったと思われます。また、欠席と遅刻が多く、授業の意図がつかめていない人も数名いました。
- ・これまでは高すぎという評価が多かったが、難しい所では、量を講義時間中少なくし、詳しく説明するなど工夫した結果が出て、良好。
- ・難しいという評価が増えつつある → いろいろな工夫をしつつ対応してきたが、もう限界である。
- ・ちょうどよいレベルだったと思います。

- ・レベルが「難しかった」と「易しい」が6人中、半々であることを考えると、クラス内での学力差がある学生がいるという現状を考慮すべきであると再認識しました。
- ・学生のレベルに適していたと評価できる。
- ・授業のレベルはある程度維持する必要があると思う。
- ・レベルはそんなに高いとは思わないが、学生にとっては少し高いのか。
- ・社会人入学の学生がいたため、問題意識が高かった。
- ・学生の評価通り、適切なものであったと思う。
- ・評価は4.3。妥当な評価だと考える。
- ・評価は悪くない。レベルを高く設定するとがんばって伸びる学生がいる一方で、ついてこれなくなる学生もいる。レベルが適切だという評価は、楽だという評価とイコールである。一部ではある程度評価がわかれるくらいがよいのかもしれない。
- ・語学力のない学生にとって洋書目録の授業などは、なかなかついてこれないと思う。
- ・その時の受講生によって異なるので、なかなか難しい。
- ・できるだけ分かりやすく理解できるよう心がけているので、項目4と7では良い評価をいただいたと感じています。
- ・前向きな姿勢なので安心です。
- ・そもそも「正視」し得る対象ではない。そのなかの極く一部としての「彼等」にシビアに考える面白さを伝えられれば充分です。
- ・学生の考えるレベルより高めであったとされた。一方、例えば英米の歴史に言及してもイギリスが世界のどこに位置するか知らない学生が相当数いることにこちらも驚き、授業運営の難しさを実感した。
- ・概ね適切であったと思う。学生のレベル差を考慮しつつ指導方法を工夫していきたい。
- ・講義科目では、「適切である」の回答が多いが、演習科目では「難しい」という学生が10%余いた。他科目で、同じような経験がないことや、学外実習において、また実社会で必要とする能力をつけるねらいなので、レベルを落とすわけにはいかない。
- ・「やや難し過ぎた」よりも「難し過ぎた」の方が多く出てしまった。4年前よりもさらに、学生たちが日本文学および文学作品に慣れていない、という感触を受ける。しかし、論述試験に対するアレルギー？を示していたわりには、大方は少なくとも論述式をめざした答案になっていたように思われる。ことに1年生の健闘が印象的。
- ・評価がまずまずなので適正であったと思う。
- ・もう少しレベルを上げて良いかと思った。
- ・ある程度のレベルを維持したいと考えている。
- ・レベルは高いと思います。
- ・TOEICで500点レベルの問題を使用してパターンを学習したが、Aクラスでやや易しいとなっていた。これはちょっとおかしいので検討する。

- No. 9の質問に対し「適切であった」という回答は、60.1%という結果であった。レベル的には栄養士として必要な厨房内の衛生管理を中心に行っているが、実験器具の扱いに慣れていないことや、その日に結果が出ないことなどから、「やや難しい」と判断したのかもしれない。内容的には簡易試験を極力取り入れているので、これ以上レベルを落とすことは、他大学の学生と競合できなくなってしまうと思われる。
- 授業の内容について「難しい」と回答した学生が多かった。専門用語が多いためと思われるので、分かりやすく説明するよう工夫の必要性を感じた。
- 学生参加型の授業については、レベルの評価はよかったものの、講義型の授業については、レベルが高すぎたようである。これは予想していたことである。相当にレベルを落として分かりやすく授業を進めたが、それでも無理であった。どこまで下げればよいのか迷っている。
- 平均よりやや低かった。高いレベルで話しているつもりはないが、1年生の4月からの講義なので、基礎的知識が不十分な状態の学生にとっては難しいに違いない。ただ、学生が本当に真剣に学びに来ているかということ、その数は少ないと感じる。どこに照準を当てるかである。
- 基本概念の説明およびビデオ教材による補足でも「難しい」という評価になるのでは、対処はかなり困難となろう。
- 学習モチベーションの高低格差が大きい。モチベーションの高低別にクラス分けをすることにより、満足度は高まるのではないか。
- 平均的に満足している。
- 学生のレベルに合わせて、できるだけ分かりやすくやるほかはない。
- 毎年そうですが、フランス語文法クラスは、レベルが適切でない＝レベルが高い＝「難しい」という回答が多かったです。やはり英語よりも文法は難しいので仕方ありません。
- 少し難しかったかもしれないが、境界領域であることからやむを得ないと思っている。
- レベルは「適切であった」と多数の学生から評価をいただきました。シラバス作成にあたり、教務、キャリアセンターと打ち合わせをしているので、想定された結果でした。
- おおむね問題はなかったようです。
- レベルについては、アンケート結果を見ると、やや高かったと思われる。しかし、ハードルを少し高くした方が達成感もあり、事実、「興味・関心」や「知識・技術」の項目の評価が高いことから、適切なレベルであったと思われる。

## b. 量について

- 量の適切さを「強く思う」と「やや思う」の合計は70%超であった。しかし、「あまりそう思わない」と「そう思わない」が2%認められた。量を減らすことは適切な対応とは思われないので、授業の進め方など工夫をしていきたい。
- 決して多くない。

- ・なるべく、1つの課題を1講座で仕上げることを目標にしているので、多くないと思われるであろう。
- ・これ以上は、今の学生にとっては無理と考えるので適量と考える。
- ・量は、「やや多い」がほぼ100%。レベルと同様、授業の中で可能な範囲で、なるべく多くの量を経験して欲しい。満足度もよいポイントが得られているので変える事はあまり考えていない。
- ・「やや多い」と答えたのは100%。これから改善していきたいと思う。
- ・学習量は多いので検討してみます。
- ・量は多いと感じられている。話の流れをなめらかにすればこの感じ方も好転すると思う。
- ・「やや多い」という評価が少しあったが、筆記速度に個人差があるので、遅い人には量が多いということになってしまうだろう。
- ・量が多すぎることなのかかもしれないが、授業アンケートの学生の評価をもっと具体的に知りたい。
- ・おおかた予測できた評価でした。
- ・最初の予定よりも、少し加減しました。
- ・この科目は、知的な理解や知識量を増やすことを求めるものではなく、教師によって示された内容を自分で考えたり、体験学習によって実感したことをもとに気づきを広げたり深めたりしていくタイプのものです。ですから、積極的にそれに取り組み大変意味のある学習をしている方と、表面的に流すだけの方の両極がいたように感じます。学生本人にはこのあたりの自覚はないため、このような結果になったと思われます。また、欠席と遅刻が多く、授業の意図がつかめていない人も数名いました。
- ・この項目については、いつも評価が厳しい。しかし、完成時の喜びを十分に味わってもらう為にも適切な量と考えている。
- ・「多すぎた」という評価が増えつつある。→ いろいろな工夫をしつつ対応してきたが、もう限界(10年前と比較すると、半期の授業でとりあげる内容を半分くらいまで減らしている)。
- ・ちょうどよい量だったと思います。
- ・「多すぎた」が2名で、大半の学生が許容範囲であることに、はじめての試みでしたので安心しました。
- ・中間の「どちらとも言えない」と思う学生が何名かみられ、多かったのか少なかったのか分からず残念。
- ・そんなに多いとは思わないが、学生は多いと思っているのか。
- ・本来であれば、半期ではなく通年で講義したい科目である。
- ・地域連携事業に参画したため、必ずしも学科本来の量をこなしたとは言えないかもしれない。

- ・評価は4.3。「授業に関するアンケート」項目12の間には全員が「やや多い」だった。当方としては、やや多めをねらっているので予想通りの反応と言える。
- ・学生からみれば多いと思われるかもしれないが、標準の何分の一にも量を減らしている。
- ・項目4と7について。毎回ポイントを分かりやすく解説しているの、消化不良にはなっていないようで安心しました。
- ・時間的にこれ位でいいのでは。
- ・評価は意に介さず。そもそも、「正視」に耐える対象としてのマスじゃないもの。
- ・学生からは多い」との評価が多かった。新しい情報がありすぎて消化しきれないとの反応がみられた。
- ・適切であったと思う。学生の理解度・反応などを考慮しながら進めていきたい。
- ・演習科目は隔週設定であり、課題提出までの時間も十分あると思われるので、本科目として決して多いとは思わない。ただ、他科目との関連で、計画的にとりくめない学生では、量が多く、難しいとなってしまうと思われる。
- ・量は適当か否かの評価について、「あまりそう思わない」が4年前に比べむしろ減少した。授業時間が1時間？であったが増えたためか？
- ・評価がまずまずなので、適正であったと思う。
- ・この位でよいかと思う。
- ・基本的な事項について、これを維持したいと考えている。このため、量的に多いと受けとめる場合もあったかと思う。
- ・TOEICでスコアを伸ばすためには量が足りないが、復習をしてこない学生があまりに多く、今の量を保つことが優先。
- ・適切と判断した学生が61.3%いた。現在の栄養士に課せられている厨房の衛生管理を理解させる場合、様々な微生物分野の内容を行わなければならない。本学は3コマ続きの実験なので、時間に合わせて複数のテーマを与えた結果、量的に多いと判断したと思われた。
- ・授業の量について「多い」と回答した学生が多かった。学んでおくべき内容が多いことはやむを得ないこととしても、基礎・基本を理解してもらえるように量（レベルも併せ）を工夫したい。
- ・レベルと同じく、講義型の授業で「多すぎる」との評価が出た。かつての授業では同じ分量をこなしていたのにである。これまたどこまで分量を減らせばよいのか……。学生のレベルの極端な低下を昨今感じる。
- ・せっかく学びに来ているのだから、より多くの知識を学び、使える応用力をつけさせたいが、量を多くと思い少し早めに話すと、途端に目の輝きを失う。やむを得ず量を控え、ややゆっくり話すしかないのかと、進め方の難しさを感じている。

- ・4～5個の概念説明および20分程度のビデオ視聴でも「多い」という評価になるのでは  
処はかなり困難となろう。
- ・量が多いのかなと反省している。
- ・天候に左右される不満はあるが、それ以外では満足している。
- ・量的にはちょうどいいと思う。
- ・量については、去年と同様今年もできるだけ減らしたつもりです。
- ・妥当だと思う。学生の理解力に応じて調整はしている。
- ・少数ではありますが、量が「多い」という意見がありました。自主的に考えたり、調査し  
たり、参考図書を読んでレポートにまとめたりすることが多かったので、それが若干負担  
に感じる原因になったかと思います。
- ・おおむね問題はなかったようです。
- ・量についてもレベルと同様のことが言える。就職活動中の学生については、直結するため  
良い点もあるが、逆に、休んだ分を追いつくことが少々困難であった。今後の検討課題で  
ある。

**設問3. この評価を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどんなことですか。**

- ・担当初回の為、内容が粗削りだった。無理のない内容に整えたい。学生による積極的授業  
参加態度を引き出していきたい。
- ・学生との相互理解を図るため、教室外のコミュニケーション（オフィスアワーの活用等）  
を活発に行っていきたい。
- ・雑談はするが、自分の考えをまとめて、意見を言う意欲が乏しい。
- ・学生が子供に興味を持つような工夫を心掛ける。
- ・今まででも考えてきたが、実験の待ち時間などに私語が増えないよう課題を与え、指示を出  
し、注意する。予習・復習の指示、資料を渡し意欲的に取り組むように促す。
- ・社会的なことに関心を持つことが出来るよう、教材・授業の仕方など、さらに工夫が必要  
と考えている。
- ・書道検定・硬筆検定を受験出きる環境を整えたい。
- ・2～7は、私としてはすでに取り組んでいるつもりです。意欲のない学生にどうすれば興  
味を持ってもらえるか試行錯誤を続けることと、反対に意欲のある学生に充実感が持てる  
授業を提供することの両者が同時に実現できるよう努力いたします。
- ・関連する美術展、書物などの情報を伝えて、視野を広くするよう取り組みたい。
- ・個別の改善ではもう無理。学力や勉強に対する姿勢の二極化が激しく進む中では、能力別  
クラス編成のような根本的な改善が必要となっているのではないかと。
- ・授業中、あまり気にならなかったが、アンケートによれば私語があったようです。これを  
教室内のコミュニケーションに変えたいと思います。

- ・「最初の授業で説明した点数配分と違っていた」という自由意見があったので、気をつけたいと思います。
- ・将来は、1冊のテキストをつくり、あらかじめ配布できるようにしたい。
- ・さらに内容を厳選し、分量を少なくしてゆっくりと授業を進め、できるだけ大方の学生達が理解できるように努めたい。一方で、「やや難しい」が「おもしろい」くらいの授業もよいのではないかと、とも思われる。
- ・板書の英語を極力ブロック体で書くように努める。
- ・私語や不正行為をなくすために、もっと学生に目くばりをする。
- ・どうやったらもっと実力をつけられるのか、更に問題の作り方を工夫する。
- ・manaba を使い始めたが、講義型の授業では、一方通行にならないよう授業の区切りの度にmanabaによりレポートを求めるなどして学生の参加を促して行きたいと思っている。
- ・4の資料については、多すぎても読みこなせる学生が少ないので、教科書に出ていないもので理解の助けになるものだけでよいと思って用意している。授業時間を有効にするために、毎回、Pre test または Post test を行っている。これを継続したい。
- ・学生の質と要求に合った内容にするよう、さらなる工夫をする。
- ・学科の「地域体験学習」の支援事業を活用して、積極的に地域に出たいと思っている。
- ・総合演習科目という特性から、全学科の学生が集まってきます。若者のコミュニケーション力が足りない点を踏まえて、グループディスカッション、グループワークを強化していきたいと思います。多くの受講生と意思の疎通がはかれるよう考えてまいります。
- ・学生に興味、関心を持たせるようにもっと工夫したいと思います。
- ・就職活動や社会に出て役に立つということと、楽しみながら授業を受けることが出来るということを中心に、授業内容を計画したい。

#### **設問4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどんなことがありますか。**

- ・遅刻が多すぎる。
- ・最後までテキストを用意しない学生がいました。本人の問題と思いつつ、何度か注意しましたが、結局用意せず。学習意欲を疑ってしまいます。
- ・意欲的に取り組む態度を見せてもらおうとこちらも励みになる。
- ・本や雑誌など活字への関心が低い。関心をもってもらうよう指導する側にも熱意と工夫が必要。※OGである向田邦子の作品を読んだことのある学生が、この授業に関しては皆無でした。
- ・他人への配慮をもっと考えられる人になって欲しい。(教員には遠慮なくいろいろな意見や注文をぶつけて欲しい。)
- ・予想以上に頑張っていた。

- ・何度も注意したのですが、携帯電話の使用が目立っていました。
- ・隔週で行っている実験なので、欠席・遅刻・早退などをした学生は次週に振り替えて出席してもらおうようにしている。
- ・何事にも一生懸命取り組もうとする学生と、何事もどうでもいい、とにかく単位さえもらえばいいといった態度の学生がいるように思います。後者の学生は、まずとにかく、教師の話を聴こうとしたり、課題をやってみようとするなど、前向きになって欲しいと思います。
- ・在籍者のうち、少なくとも半分は主体的に授業に取り組もうとする姿勢があるものと思う。その一方でそうでもない学生も目立って増加しつつある。これまでの普通の授業では、とても指導していくことのできない学生もいる。
- ・志をもって学んでいてもらいたい。
- ・よりいっそう自覚的・自立的・自主的であれかし。
- ・熱心な学生ほど自信がないように見受けられる。もう少し自信をもって欲しい。
- ・基礎学力（国語力、英語力）をつけて欲しい。
- ・私語（大声）に閉口することが度々あり、再三注意を促しても改善されなかった。しかし、学生の私語に関する設問の回答は「それほどしていない」「授業に関係ない話はしていない」というのが、主張のようであった。設問の意図を誤解しているのではないか。
- ・提出物の提出期限を守って欲しい。
- ・知的好奇心を持ってもらいたい。
- ・単に出席しただけで安心してしまわないで欲しい。取り組んでみようとする姿勢を養ってほしい（引き出せるように工夫したい）。
- ・資料を十分に配布しているのだから、授業時以外でも勉強して欲しい。
- ・真面目に取り組んでいるクラスメートにとって、私語が大変な迷惑になることを自覚して欲しい。
- ・試験の前にプリントの正解番号だけを暗記するのではなく、内容を学習するようにしてもらいたい。
- ・レポートは毎回添削をして返すのですが、改善の見られない学生がおります。社会に出た時に恥をかかないためにも、注意された所は直して欲しいと思います。
- ・3点選んだが、どれも実現は難しいと思う。これ以上授業レベルを下げずにすむ学生が欲しい。
- ・講義されたことだけを理解していればよいのは、せいぜい高校まで。自分が興味のあるところを自ら掘り下げていく探究心を持って欲しい。壁にぶち当たったら、教員に聞きに来れば良い。そんなつもりで話しているが、応えてくれる学生は少ない。

- ・「言いたいこと」とは少しズレるが、学生とのコミュニケーション（質疑など）をはかろうとしても、学生の基礎知識・常識の不備のため、その説明に時間をとられるのは厳しい。
- ・授業および行動における態度が悪い。
- ・短大の2年間は、実に貴重な人生の自由時間であることをもっと意識して、新しい体験に果敢に挑戦して欲しい。のんびんだらりと過ごすな！
- ・授業中に席を立ってお手洗いに行くこと。ある一部の学生の私語が多く、注意しても改善されないこと。
- ・①オンとオフ：授業とお休み時間の区別をして、休む、学ぶことのメリハリを身につけて欲しい。②義務と権利：やるべき課題をしないで、自分の主張だけを言わない姿勢を持って欲しい。
- ・人数が少ないこともあり、私語もなく、よく聞いて参画してくれました。
- ・受動的に授業を受けるのではなく、自分の興味を交えながら能動的に授業に取り組んで欲しい。

#### **設問5. 授業改善に関することで、学科や短大に要望があれば具体的にお書きください。**

##### **a. ソフト面**

- ・講座名をもう少し現代の感覚に合うものにした方が良いのではないか。「ライター入門」というときのライターにあまりイメージも関心も湧かないようだ。後期の「近代ジャーナリズム論」も、「現代ジャーナリズム論」の方が内容に即している。
- ・教養としてのだけの位置づけではなく、学問としての書道を教授するには、半期だけでは時間が足りません。
- ・授業時間数の中で、施設を理解したり興味を持たせるため、見学や体験を取り入れたいと思った。しかし、非常勤であるため大学のルールで組み入れられないのが現状。他大学のやり方も見習って改善して欲しい。
- ・英語の必修科目ですが、クラス内のレベル差がありすぎました。
- ・今年度困ったことは、就職活動のためであるといえ、何回授業を欠席してもよいように考えている学生が数名いたことです。授業は毎回積み重ねていくものですので、欠席すれば理解できなくなります。就職活動による欠席の取り扱いについて、学生は「他の先生はこうしてくれるのに、何でダメなんですか？」と挑戦的でした。そのあたりの指導について、非常勤講師にも、原則ではなく現状がどうなっているのか詳しくお教え下さいますでしょうか。
- ・手芸に関する雑誌を資料としているが、私物でかつ古い外国雑誌なので、ロッカーに常備できるかたちで、新しいものが揃えられたら幸いです。
- ・問3の回答につきる。（個別の改善ではもう無理。学力や勉強に対する姿勢の二極化が

激しく進む中では、能力別クラス編成のような根本的な改善が必要となっているのではないか。)

- ・地域連携事業の推進方法について、たとえば費用の問題等事前打合せをして欲しかった。
- ・学生の基礎学力を補うためのサポート授業が必要だと感じています。学生は能力が劣るのではなく、あまりにも知識に欠けるため、大学レベルの授業に対し、ハードルが高すぎる状況になっていると感じています。
- ・すでに配慮はしていただいていると思いますが、教室の割り当てについては、あらかじめ教員の希望など聞いてもらうとよいかもしれない。もっとも、受講人数の確定した科目についてであるが、そのようにすることによって人数に適した授業をしやすくなると思う。
- ・来年度は授業内容の変更があると伺っています。実践の目指すキャリアプランニングが、今の社会が求める人材とつながっていくことを期待しています。「社会人基礎力」を高めていくことで、実践のスタンダードな教育につながることを願っています。
- ・就職活動に直結する内容であるため、1年の後期に開講するのが最も適切であると思われる。

## b. ハード面

- ・プロジェクターの使える教室にして欲しい。(今年度は私が申し出なかった。)
- ・書道は定員(36名)いっぱいだと教室は使いにくい。広い教室で2人掛けが望ましい。
- ・座席移動の容易に行える教室で授業がしたい。
- ・グループ学習を進めやすい机の配置などをご検討ください。
- ・いつも授業のしやすい環境を整えていただき感謝しています。
- ・実験の設備・ドラフトや廃棄ルートの確保は必要に応じて行っていただけるとよい。
- ・全体に大変整っていて、大変よくしていただいております。非常勤講師用のコピー機、印刷機、パソコン、教室でのビデオ・OHCの使用、図書館の資料の準備、副手・非常勤講師室の事務の方の対応など、どれも素晴らしく感謝いたしております。特に、今年度は、隣の教室のビデオかCDの音声が大きく、私の授業の妨げになった折、廊下側の高い窓を閉めたり、その効果についてお尋ね下さるなど、丁寧に対応していただきました。
- ・設備を充実して欲しい。
- ・ビデオの他、DVDが使用できる教室を希望します。
- ・改善されています。
- ・テレビ画面の横長の補正、スライドの色の改善をお願いしたい。
- ・持ち込みPCへの対応が古いのではと感ずることがあるが、特に支障があるというわけではない。
- ・レコーダー希望(レコーダーを使用するのロールプレイは、学生の関心も高く演習効果が高まるので今後も上手に取り入れていきたい。)

- ・教養、板書中心なので（手で書いて覚えさせるねらい）、黒板の狭い教室では、消すのに時間がかかることと、効果的な使い方（対比させて板書などできない）に難がある。
- ・中教室にもワイヤレスマイクがあるとありがたいのですが・・・。
- ・下のクラスは授業を聞いていないので少人数制にしてもらいたい。
- ・実験室内にもPCプロジェクター等の設備があると、講義中や実験中に映像と比較しながら授業が進められ、ビジュアル世代の学生には良いかもしれない。
- ・PC教室は、学生机の前にディスプレイが大きく立ちはだかり、教員から学生の動きが把握しづらい。機器の更新時には、ノート型PCを導入すると良いと思います。
- ・ブラウン管モニターを早急に液晶もしくはプラズマの見やすいモニターにして欲しい。ビデオを積極的に使いたくとも、狭くて不鮮明な画面ではインパクトに欠ける。
- ・ホワイトボード用のマーカーが、以前から「細字」のみしか購入されないのは何故か。特に後ろの座席でなくとも、学生にとっては板書が読みづらい状況が続いている。ひいては学生評価に影響するので、改善を願いたい。
- ・学生とグループを作って話し合いのできるような部屋が欲しい。教室でもいいから、丸テーブルをおいたサロン風の空間がぜひとも必要。
- ・パワーポイントで授業をすることが多く、パソコン、スクリーンなどはとても使いやすかったです。初めは機械操作に手間取りましたが、教務の方から親切に教えていただきました。初めて使用する教員には、事前に説明や練習する時間があるとありがたいと思いました。
- ・願わくば、備え付けパソコンがあって、ネットにつないだり、パワーポイントで説明できると良いと思います。
- ・前年度と比較して、manaba ができたので使いやすくなった。あとは、自分自身のファイル（教員・受講生）を自宅からやりとりができるようになるとさらに良いと思われる。

**設問6. 学生アンケートへの内容、実施方法について、意見や要望があれば具体的にお書きください。**

- ・アンケートの回答を重要視するのであれば、時間をたくさん使い、学生によく考えさせた回答を提出させればよいと思います。授業時には、あまり時間を割きたくないと考えています。
- ・学生は正直です。とても反省材料になります。
- ・適切かと思えます。
- ・アンケートに真面目に記入する雰囲気作りが作りにくく困ります。隣としゃべったり、内職の片手間に記入しているような学生が見られます。「大切なアンケートなので」とお願いするのですが…。どのくらいに信頼性があるのか、難しいところです。
- ・その授業のアンケートを担当教員が取るのは、正当な評価を得、真摯に授業改善をはかる

上で、いかがなものか。

- ・良い講義を作り上げるには、教員だけでなく、学生の協力も不可欠である。受講態度が良い→講義が円滑に進み、より充実した内容を提供できる→学生の満足度が上がる。
- ・I項の設問を増やし、学生の授業貢献度も問うことで、記入者の回答に対する責任、受講する責任の自覚を促すことができるのではないか。
- ・参考になります。今後の授業運営に役立てたいと思います。
- ・担当する同一科目の経年変化を見てみたい。
- ・学生が把握・記憶しているとは考えにくい「シラバスどおりの進行」に関する設問は不要ではないか。
- ・いささかマンネリの感あり。自由記述をもっと多くしてはどうか。
- ・語学の授業なので、学生が理解しているかどうかは、ほぼ授業の雰囲気で見分かります。アンケートとして結果が出てくると、より参考になります。語学は、勉強する学生としない学生の差がとても大きいのですが、それは授業態度にも直結しています。
- ・学生の本音を聞きたいということで「無記名」の形式になるのかと思いますが、学生のヤル気（授業に臨む姿勢）と評価の関連性がどうつながっているかに関心があります。講義がつまらないからヤル気がないのか、勉強することに関心が低いのか、何を期待しているのか。一人でも多くの学生が自ら課題を見つけて、自分の意志で学ぶ姿勢を持ってもらいたいと願います。そのことを探る上でも、記名式にすることで学生の評価と教員の評価がどう関連しているのかがわかるので、次への改善点につながるのではないか、と感じました。
- ・同じ時期に同じアンケート票で何度も行うせいか、学生は慣れというか機械的に対応しているのかもしれないという印象があります。それも仕方ないことですが、現在の質問形式よりも、「ここを改善して欲しい」「もっとこうして欲しい」など、具体的な要望を書いてもらうのもいいかもしれません。
- ・絶対評価だけでなく、他の科目との相対評価もあると良いと思う。

2008. 9. 15

## 「学生による授業評価」に関する教員アンケート

自己評価委員会

2008 年度前期授業アンケートについて、以下のアンケート項目にお答えください。

\* 回答締め切りは、10 月 16 日（木）、提出先は事務部（有賀）または [yahata-takafumi@jissen.ac.jp](mailto:yahata-takafumi@jissen.ac.jp)（八幡）

1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。（1 つ選んでください）【回答欄】

1. この評価は十分納得できる

2. だいたい納得できる

3. あまり納得できない

・ 納得できる点、あるいは納得できない点があれば具体的にお書きください。

2. 授業のレベルと量についての学生の評価はいかがでしたか。この評価について、先生の側から見たご意見をお書きください。

a. レベルについて

b. 量について

3. この評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどんなことですか。

（複数回答可）

【回答欄】

--	--	--	--	--

1. 教科書の選び方、授業時における使い方を工夫する。

2. シラバスの書き方を工夫し、シラバスに添った授業を行う。

3. 教室での話し方、板書の仕方などを工夫する。

4. 授業時に配付する資料を充実させる。

5. ビデオや映像資料などの視聴覚教材やマルチメディアの活用を図る。

6. 学生との質疑応答など、教室内のコミュニケーションをよくする。

7. 一方的な講義でなく学生の参画や体験学習にも力を入れる。

8. その他、改善を図りたいと考えていることがあればお書きください。

4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどんなことがありますか。  
(複数回答可)

【回答欄】

--	--	--	--	--

1. 私語を慎むなど受講態度をよくしてほしい。
2. もっと積極的に質問をしたり、授業後でも分からないことがあれば聞いてほしい。
3. 教科書や教室で指示した参考書を読むなど、授業時以外でも勉強してほしい。
4. 欠席はもちろん、遅刻、早退をしないように努力してほしい。
5. その他、特に学生に「言いたいこと」があればお書きください。

--

5. 授業改善に関する事で、学科や短大に要望があれば具体的にお書きください。
- a. ソフト面（科目の位置づけや時間割の組み方など）について

--

- b. ハード面（情報機器、用具、備品など）について

--

6. 学生アンケートの内容、実施方法について、ご意見やご要望があれば具体的にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました。

(この結果は、自己評価委員会で報告書にまとめた上、Web 上でも公表する予定です)

# 授業に関するアンケート

実践女子短期大学

このアンケートは、学生の皆さんの意見を受けとめて、短大の授業をより良くしていくために行うものです。アンケートは無記名で行い、調査結果もデータとして統計処理します。誰が書いた回答かわかりませんし、授業の成績とも関係しません。あなたの思っていること、感じていることを正直に答えてください。

所属学科	<input type="radio"/> 日本語コミュニケーション学科 <input type="radio"/> 英語コミュニケーション学科 <input type="radio"/> 実践女子大学	<input type="radio"/> 生活福祉学科 <input type="radio"/> 食物栄養学科 <input type="radio"/> その他	授業名	
在籍学年	<input type="radio"/> 1年生 <input type="radio"/> 単位互換生	<input type="radio"/> 2年生 <input type="radio"/> その他	担当教員名	

評価項目		⑤	④	③	②	①
あなた自身の授業の取り組みについて	1 あなたはこの授業中に授業と関係ない会話をしたことがありますか	全くなかった	ごくまれにした	時々した	かなりした	毎回した
	2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない

教員の授業の進め方について	3 講義概要などの授業計画にそって、授業は進められましたか	←	そう思う		そう思わない	→
	4 授業内容がわかるように構成されていましたか	⑤	④	③	②	①
	5 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか	⑤	④	③	②	①
	6 この授業の教科書・資料や視聴覚教材の使用は適切でしたか	⑤	④	③	②	①
	7 質問に対する教員の対応は適切でしたか	⑤	④	③	②	①
	8 総合的に考えて、教員は熱心に授業を進めましたか	⑤	④	③	②	①

授業の内容について	9 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか	←	そう思う		そう思わない	→
	9で②か①にマークした人は次の質問に答えてください	難し過ぎた	やや難しい		やや易しい	易し過ぎた
	10 授業内容の難易度はあなたにとってどうでしたか	⑤	④		②	①
	11 授業内容の量はあなたにとって適切でしたか	←	そう思う		そう思わない	→
	11で②か①にマークした人は次の質問に答えてください	多過ぎた	やや多い		やや少ない	少な過ぎた
	12 授業内容の量はあなたにとってどうでしたか	⑤	④		②	①
	13 この授業を受講して、あなたの興味や関心はふえましたか	←	そう思う		そう思わない	→
14 この授業を受講して、新しい知識あるいは技術を得ることができましたか	⑤	④	③	②	①	
15 総合的に考えて、この授業を受講してよかったですか	⑤	④	③	②	①	

授業別の特別設問	16 この項目は、教員から特に指示された場合のみ回答してください	←	そう思う		そう思わない	→
	17 この項目は、教員から特に指示された場合のみ回答してください	⑤	④	③	②	①

自由記入欄(授業への感想や要望などを自由に書いてください。裏面使用可)

©2008 年度実践女子短期大学自己評価委員会

委員長 : 佐藤辰雄 (日本語コミュニケーション学科)

副委員長 : 越野由香 (教職・図書館学課程)

委員 : 遠藤 光 (英語コミュニケーション学科)

西脇智子 (生活福祉学科)

芦川修貳 (食物栄養学科)

庶務 : 八幡隆文、有賀昌子